

2019(令和元)年度事業報告書

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会

2020年3月発行

1. 目的

我が国の都市部を除くあらゆる地域では、少子高齢化や労働人口の流出により夫婦あるいは親子だけの世帯や独居者が増加し、親子孫などの世代間での共助や扶助の精神、あるいはその実践が著しく低下して、地域における人口構成の歪みや雰囲気の高さや不安が拡大している。経済状況の好転や雇用創出による労働人口の増加を待つばかりではなく、地域に暮らす者にとっての安心感を醸成するためには住民相互の信頼感や一体感を高めることが喫緊の課題である。この解決にあたっては、これから社会を担う子供達ばかりではなく、その周囲で暮らす大人達も、経済的な価値ばかりではなく、地域の自然の豊かさを体感することなどで郷土意識を育み、多様な価値観を共有あるいは認め合うことが肝要である。そこで広がりをもったご近所付き合いの復活と世代間の交流や共助を推進することを目指して、帯広川の水辺を学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用する。特に、自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく、個々人の日常的な行動が大きく影響することを理解して自助・共助の精神や行動を活発化させる。

2. 計画および実績

体験学習などで川において活動を行う場合は、まず参加者の安全確保に努めている。特に子供の安全を担保する大人の人数や用具数から参加人数の上限を設けて実施している。主な実施場所は、会議や講演会などは公共施設である西十号会館、川での体験学習では子供を含む参加者が安全に移動できる範囲の帯広川で実施している。実施に当たっては、NPO、企業、子どもの水辺北海道地域拠点センター等の協力を得、さらに北海道開発局帯広開発建設、北海道十勝総合振興局帯広建設管理部、帯広市都市建設部管理課・市民活動部市民活動推進課・教育委員会にはご指導を頂くとともに要に応じて報告を行うこととしている。

2019年度は、学校教育支援や勉強会および河川活動として水質・生物調査、河川清掃、河川環境保全などを行い、延べ約874名（前年956名、他組織主催事業も含む）が参加した。

2019年度の事業実績を時系列で示したのが表2.1である。

2.1 学校教育(水辺体験学習)支援

初等教育における英語やプログラミングなどの教科化あるいは弊会運営委員の高齢化などを事由として、児童の帯広川体験学習は開西小の1～3年生を対象とした。

当初計画では、川の体験学習を7回行うこととしていたが、降雨・低温等で複数回中止となり、

延べ参加人数は、子供 169 名、大人 117 名、計 286 名だった。

園児・児童には、川に親しむことと同時に川に内在する危険を理解、体感できるように指導した。また、安全確保を担う大人および教員等に対しては、水棲生物の特徴や水質との関係などを考える契機を提供するとともに自らが暮らす地域の自然の豊かさを体感 認識できるように努めた。また、帯広川の地理的ば特性や水質あるいは生息生物などについては要に応じて専門家から知見を得、またウチダザリガニやブラントラウトなどの外来生物や漁業権が設定されているサケ、ヤマメについても学んだ。

帯広川での水辺体験学習支援

- | | | | | |
|---|------------|--------------|---------------|--------------|
| ① | サケ稚魚放流 | 4 月 22 日 (月) | 子供 39、大人 19 名 | (写真 サケ稚魚放流会) |
| ② | 開西小学校 1 年生 | 7 月 08 日 (月) | 子供 33、大人 19 名 | (写真 左) |
| ③ | 帯広幼稚園 | 7 月 09 日 (火) | 子供 26、大人 25 名 | |
| ④ | 帯広幼稚園 | 7 月 10 日 (水) | 子供 56、大人 21 名 | (写真 中) |
| ⑤ | トムテのいえ保育所 | 8 月 03 日 (土) | 子供 15、大人 33 名 | (写真 右) |



2.2 勉強会等

① サケ稚魚の飼育管理 (2018 年 10 月から 2019 年 4 月 22 日まで)

さけ・ます増殖事業協会から供与された親サケを用いて採卵・人工授精、さらに孵化させたサケの稚魚を開西小学校で飼育、展示した。月に 2 回程度、生育状態の調査および水質等の管理を行うとともに学校からの要請により問題の解決にあたった。

② 体験学習「サケの稚魚放流会」(再掲)

4 月 22 日 (月) 10 時 30 分

開西小主催、十勝総合振興局・弊会後援。3 年生の授業として実施。児童 39、大人 19 名参加。開西小学校の水槽で成長した稚魚の体長、生体重を計測後、放流会場まで冷却しながら運搬し放流した。振興局から河川管理の取り組みを説明し(写真下)さらにサケの生態および水棲生物にとって山や岸辺の植物等が物質循環の中で重要な役割を果たすことなどを解説した。

十勝毎日新聞
2019年4月22日

○…帯広開西小学校(野中利晃校長、児童256人)の3年生39人は22日、サケの稚魚を同校近隣の帯広川に放流した=写真。昨年から大切に育て、子どもたちは「頑張れ」「生きて」と声を掛けながら長旅の無事を願った。

○…帯広川伏古地区子どもの水辺協議会の指導の下、毎年実施。昨年10月に受精させ、学校玄関口の水槽で育ててきた。放流は午前11時ごろから行われ、子どもたちはさけ・ます教育コーディネーターの石垣章さんからコップに入った稚魚をもらい、優しく放流した。

○…稚魚は生まれたときは2.5gほどだったが、現在は5gほどに成長。放流した大沼理恵さん(8)、篠村和輝君(8)は「感動的だった。大きくなって帰ってきてほしい」と話していた。稚魚は3年生が卒業するころに川に戻ってくる予定。荒波に負けず、大きなサケになあれー。(松田亜弓)



③ 体験学習「第17回クリーンウォークとかち in 札内川」

5月11日（土）10時から（札内川、7名参加）

クリーンウォークとかち実行委員会主催。河川愛護の啓発と実践を目的として企業、団体等が実行委を組織して、毎年、帯広市内の札内川河川敷で実施している。団体あるいは個人、計約700人が参加、午前9時半から北愛国交流広場で開会式が行われ、伊豆倉米郎副実行委員長（弊会：陪席委員）が「ごみを捨てない、捨てさせないを目標に、札内川の環境を維持していきたい」と挨拶。参加者は4グループに分かれ、愛国大橋を中心に約2キロの範囲を1時間半かけて清掃した。弊会からは7名が参加した。昼食を兼ねた懇談会では、ジンギスカン鍋を囲みながら河川管理者、建設・土木企業、金融機関、NPOの方々



と十勝の河川に関する現況や課題について意見交換を行うとともに懇親を深めた。

④ サケ人工受精体験会

開西小学校・弊会共催、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会（増殖協）後援。10月28日（月）午前10時から開西小学校理科室にて授業の一環として実施した。

元さけ・ますセンター帯広所長の石垣章氏がサケの受精の仕組みなどを解説した後、児童がサケの魚体に触れ、次いで卵子を取り出し精子を振りかけて、静かに手で混ぜ、帯広川の水を少量入れることで受精を完了させた。直ちに受精卵を開西小学校に設置した水槽へ移した。その後、サケの内臓を解剖しながら説明した。児童は積極的に心臓やエラなどに触りながら質問をしていた。親サケの身は、サケのフレークに加工し希望者に配付した。開西小菅沼教頭は、「小学校単独で、このような体験授業を行うのは困難だが、種々の協力によって可能となった。生物の学習でインパクトのある良い体験ができた」、



また野中校長は「今回の体験授業のように地域社会が子供の教育に関わって頂くことの意義は深く、多様な専門性を有する地域の方々が初等教育においても活躍して頂きたい」と語った。生涯学習の重要性が叫ばれてから久しいが、今回のような活動は多様な経験や認識を世代を超えて継承、共有することに繋がる良い契機と考えられた。

サケの人工受精に理解

帯広川伏古地区 開西小で授業
子どもの水辺協議会

帯広川伏古地区（野中利）開西小で10月28日、サケの人工受精を学ぶ授業が行われた。2年生57人が対象児童らは初めて間近に見るサケの体や卵の様子に興味津々。アタと通うことはしやきながら、生物が誕生する仕組みへ理解を深めた。授業は帯広川伏古地区子

初めて間近に見るサケの卵を熱心に観察する児童ら

子どもは、さけ・ます教育コーディネーターの石垣章さん（左）から、サケの体や受精の仕組みを教わる。人工受精に挑戦。腹を割いて取り出した卵に触ったり、精子を掛けたりしながら、新しい命が生まれる過程を学んだ。

受精卵は同校の水槽に移され、児童がふ化後の様子などを観察。来年4月には帯広川に稚魚を放流する。石垣さんから「サケは川の匂いを覚えて同じ川に戻ってくる」と聞いた久岡歩（右）は「サケのことがいろいろ分かって面白かった。これからは帯広川の匂いを間違えないで、帰ってきてほしい」と笑った。（奥野秀康）

子どもの水辺協議会（関川三男会長）が主催し、今年で5回目。帯広建設管理部も協力した。

⑤ 講演「十勝の観光文化検定特別セミナー」

2019年1月26日（土）午後1時30分～4時30分、帯広経済センタービル6階研修室。十勝の観光文化検定試験（とちか検定）は、十勝の魅力の再発見と地域の歴史・文化の伝承、さらには観光振興を目的としている。公式テキストの編集にも参画した弊会の会長が、十勝の川の特徴や現状などや試験に関するセミナーの講師として参画した。

2.3 河川活動

河川活動は帯広市西21条南2丁目付近の帯広川右岸約1.5kmを中心として行ったが、他組織が主催する事業においては十勝管内の十勝川や札内川の本支流でも活動した。

① 水質・生物調査

- ・ 帯広川分流堰を観測点として「濁り」と「臭い」を官能的に評価し、あわせて川の水面の写真撮影を行った。なお、水質に問題があると判断された際には、簡易水質検査（パックテスト）を行った。その結果、4月上旬から12月までに、数回、一過性で水質の悪化が認められた。河川管理者（十勝総合振興局）に通知するとともに関係機関（帯広市、報道）へ水質の改善推進を要望した。（写真2.3①）
- ・ 4月から11月まで生物の生息調査を行ない、魚類では、ドジョウ、ウグイ、ヤマメ、虹鱒、ブラウントラウトの生息が確認された。なお、本年はウチダザリガニ約90匹、ブラウントラウト11尾を駆除した。（写真2.3②）

② 河川清掃

- ・ 帯広市河川一斉清掃（5月13日）に呼応し西21新興町内会とともに帯広川で実施した。（写真右）
- ・ 十勝川および札内川でゴミ拾いを複数回行った。
- ・ 弊会役員による帯広川の定期的なゴミ拾いは、月1回を基本とし、4月から11月までの間に計11回実施した。



③ 河川環境整備（写真2.3③）

- ・ 河川敷公園（西21条南2丁目）北側の帯広川排出口周辺部の親水広場の整備を行った。6月5日から11月6日までの間に7回、延41名で実施した。なお、この排出口周辺の環境整備の一部は、（公社）北海道森と緑の会助成金の交付を受け実施した。
- ・ 帯広川堤防の法面や天端において散歩などで利用する方の危険を防止するために、倒木や棘を有するニセアカシアおよびイラクサなどの除去を3回、延11名で実施した。

2.4 会議等

① 役員会：会長、副会長、事務局長および会計で構成され、帯広川の環境保全や安全対策等について検討した。さらに年次・人材育成計画の評価および中長期計画の策定等を行った。今年度は持ち回り会議を含めて15回開催した。

② 監査および総会：監査は4月19日（木）午後2時から、総会は5月9日（水）午後6時から

両者ともに西十号会館で開催した。総会では前年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計および役員案等を審議し、全てが提案どおりに承認された。また、学校教育支援について幼稚園および小学校からの要望を受けて原案を役員会で作製することとした。総会終了後には運営委員の他に北海道開発局、十勝総合振興局および関係者が参加して懇談会を行い、親睦を深めるとともに帯広川の治水や防災および環境保全等について意見交換を行った。

③ 懇談会：運営委員相互および協力を頂いている組織・団体の方々との情報交換および親睦を図るために5回実施した。この他、他組織主催の懇談会にも積極的に参加した。

- ・ 4月19日 監査終了後に開催。総会の議題、進行等を検討した。
- ・ 5月9日 総会終了後に開催。今後の事業や財務について意見交換を行った。
- ・ 11月1日 今年度の帯広川体験支援活動を総括するために「納会」と呼称し開催。34名参加。教育・河川関係者を含めて川の利活用方法や課題について意見交換を行った。（写真右）



2.5 その他

- ・ 全国水環境マップ実行委員会主管の水質検査を6月に実施、結果を報告した（継続）。
- ・ ウチダザリガニ防除のための「かごによる採捕許可」を環境省から取得（～2021年3月）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管「とかちエコマエストロ」に就任（継続）。
- ・ 北海道開発局が主管する札内川懇談会委員に就任（継続）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管の「川づくりワーキング」座長に就任（継続）。
- ・ 「かわまちづくり」に関する勉強会を実施（継続）。
- ・ 帯水協が所有する備品等の一覧表を作製して関係機関や地域の方々へ周知した。なお、現状復帰を原則として貸し出しを行うことで備品等の有効活用を図った（継続、備品等一覧）。

3. 総括

今年度も帯広川の水辺を生涯学習や地域住民の交流の場として活用することによって、住民が地域の自然の豊かさを認識し、さらに世代間の交流やご近所付き合いの活発化などにより共助を推進することを目指して活動を行った。自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個人の日常行動が大きく影響することを理解し自助、共助の精神および行動を活発化させることとした。

平成24年度から実施している帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備を引き続き行った。十数年間放置されて荒れ放題の水辺を、地域住民が主体となり安全で快い広場とした。すなわち、散策路や川面への近接路の雑草処理、釣り場の安全確保等を弊会が企画・実施した。今年度は（公社）北海道森と緑の会「緑の募金公募事業交付金」に採択され、これを活用して実施した。

帯広市立開西小学校の児童や教員が帯広川を訪れて水辺の体験学習を行った。児童は、川の危険性（深場がある、浅くとも流れが速い、水温が変化する等）や生き物の多様性（ザリガニ、ドジョウ、ウグイ、昆虫等の捕獲）について体感し、地域の自然が豊かであるが危険（蜂、蛇、ニセアカシア、イラクサ等）も内在することを理解したと思われる。

帯広川や地元で採取した生物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上することに

つながり、さらに地域の自然の豊かさを認識して郷土愛が育まれるばかりではなく、食に関わる先人の知恵を学ぶ好機と捉えている。今年度もウチダザリガニ（駆除のために捕獲）や帯広川排出口付近で自生する蔦、セリおよびミツバを採取して安全性を確認後、子供を含む希望者で賞味した。また、この地域に生息する駆除対象の生物（ウチダザリガニ、ブラウントラウト、虹鱒、ミンク）は、全て食用等で人が移入したものであることを説明すると、子供ばかりではなく大人も驚嘆していた。このように身近な自然体験は、環境、エネルギー、経済などの現代社会が抱える諸問題を、食べるという本能的な行為から考える良い契機になると思われた。

サケの人工孵化・飼育事業を引き続き実施した。この事業は一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会の後援によって実現することができ、ここに増殖事業協会に対して深甚なる謝意を表す。地域教育（家庭教育と学校教育の間を場とする教育）や生涯学習の重要性が叫ばれて久しいが、この事業は多様な専門性を有する方々や組織が連携して行う教育効果の高い事業であると自負している。十勝で暮らす方々がサケの生態や食材としての特性を意外なほどに知らず、子供とともに大人が真剣に学んでいる姿が印象的であった。このように全ての参加者が共通の感動を同時に体験することは、世代や組織間あるいは参加者同士の隔たりを超えて、相互認識の促進や信頼感の醸成に繋がり、ひいては安心・安全な地域づくりに貢献するものと考えられた。また、十勝の特産品であるサケやシシャモの生態、利用の歴史あるいは食材としての特性を正しく理解、把握する方が増加することは、漁業や食産業ばかりではなく観光事業や情操教育にも貢献するものと考えられる。すなわち、海と川を行き来する生物の戦略、産卵後に個体の生涯を終えること、母川回帰や孵化した日を記憶して遡上すること等、不思議が一杯であり、人間の生涯と比較すれば多くの示唆に富んだ物語が産まれる予感がする。地域の特産加工食品や観光においては歴史に裏打ちされた非日常的な快い物語が、今、求められている。

これまで弊会では、市民が帯広川流域全体を持続的に活用するために、帯広市の内閣府認定「環境モデル都市」計画の中に位置付けられる「かわまちづくり協議会」（仮称）の設置が必要と考え、その設立のために「かわまちづくり」勉強会を行ってきた。帯広市を東西に横断する帯広川の流域全体を一体的に考えるための組織を民産学官の連携で立ち上げることを企図したが、帯広市が理解を示さないことから発展的に解散した。しかし、弊会を含む民間組織との間では、以下の目標を共有して活動を継続している。

①市の中心部から集積した住宅地である西部地区を繋ぐ遊歩道あるいはサイクリングロードとして帯広川堤防天端等を車道と完全に分離した形で活用する。これは②火災や震災時の避難路および水害時の土嚢等の設置あるいは貯蔵場所としても活用し得る。③日常の草刈、清掃などの点検・維持活動は、河畔の町内会等の地域主体で行い、あわせて水質の異常や危険箇所などを河川管理者へ通報することとし、さらに④河畔林は「帯広の森」計画の回廊部分として位置づけて市民の憩いの場として活用を図るものとする。これらを具体化するために、NP0、任意団体および河川管理者等との勉強会を行った。これからも種々の会合などで、これらについて議論を深めたい。

弊会は設立10年目となり、日常の活動は比較的安定的に実施できるようになってきた。しかし、事業遂行に当たっては、特に川での活動や支援において安全確保が最重要であり、事故がないよう努めた。また、多くの役員が居住する町内会と開西小学校の校区の方々を主な対象として活動しているために、事業やその遂行が慣習化することを戒めている。

このように、弊会が安定した組織運営と事業遂行が可能だったのは、運営委員を初めとして、ご協力を頂いた方々の絶大な支援の賜物と深謝している。また、河川管理を担う国土交通省北海道開発局および北海道十勝総合振興局には、日頃の河川活動に対して丁寧なご指導を頂いた。これまでに公益財団法人河川財団および一般社団法人北海道土木協会から助成を得られたことによ

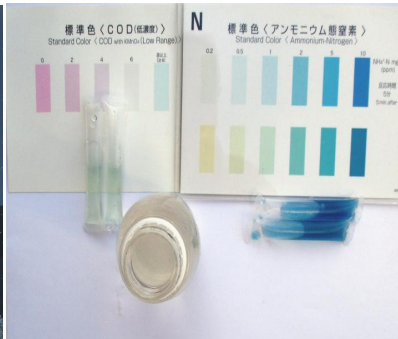
って事業基盤を整備することができた。また、帯広信用金庫や十勝毎日新聞社を、はじめとする地域の企業、団体および個人から多大な支援を頂戴した。ここに記して深甚なる感謝の意を表す。なお、今後、弊協議会は、町内会などを含む民間団体、企業および行政機関等との連携を強化して持続的な財務体質を構築し、さらに若い人材の発掘・教育にも努力する所存である。

追補：本報告書をまとめ始めた2月、中国武漢を震源とする新型コロナウイルス（COVID19）が世界を震撼させた。このウイルス感染を防御するために、従来通りの事業遂行は困難となり、弊会でも監査、総会、サケ稚魚放流会の中止/延期などの対応が強いられている。

「ウイルスは生物か非生物か」の議論は生物学にお任せするが、我々、人間はウイルスの繁殖（繁殖）戦略に屈することはないし、多分、克服できると思う。それは、1918年から1921年までのスペイン風邪で我が国の罹患者2,300万人、死者38万人と記されているものの、2020年の今も我が国では1億に近い方々が新型コロナウイルスの感染防御のために人との接触を避けて暮らしているからである。100年前に比べ人が移動する範囲は広がり、その時間も短縮され、相対的に地球は小さくなった。このため人が媒介する感染症の伝播は急速に広がる。

人と人との接触回避は、多分、人類が経験したことのないことであり、今回の自粛や接触回避は衛生意識や実体経済ばかりではなく、物事の進め方まで変化させる予感がある。弊会の運営についても慣習や前例ではなく本質的なものを考えていきたいので、宜しくご善導願いたい。

写真 2.3① 帯広川取水口の水の濁りと尿尿臭（振興局へ報告）



20190601 快晴 濁り・尿尿臭
採水 7:05、検水 7:12
水温 14.2°C
COD 8ppm 以上 検出限界超
NH₃ 態窒素 10ppm 以上 検出限界超



南一線橋下流の堤防に見られた陥没（振興局へ報告）



ブラウントラウト
5/24 6:57
南一線橋上流
大成川合流付近

写真 2.3② 外来種の駆除

表2.1 2019(令和元)年度事業実績

2019年4月1日～2020年3月31日

月	日	曜日	事業等	参加者	場所等
4	7	日	役員会・資源回収、帯広川視察	17	事務局、河川敷公園
	11	木	サケ打合せ	4	開西小
	22	月	サケ稚魚放流(約400尾)	58	開西小→帯広川 児童39・大人19名
	22	月	会計監査	6	西十号会館
	25	木	帯広川環境整備打合せ	2	振興局
	30	火	役員会(平成の大奮闘、5/1令和元年:改元)	6	事務局
5	9	水	総会(定期運営委員会)、懇談会	34	西十号会館
	7	火	札内川懇談会	4	帯広開発建設部
	10	金	役員会(傷害保険契約等)	4	事務局
	11	土	クリーンウォークin札内川	7	札内川
	12	日	全市一斉河川清掃	32	帯広川
	15	水	帯広川排出口環境整備	5	帯広川
	17	金	NPO多自然ネット総会	4	アパホテル
	24	金	役員会(会計計画他)	4	帯広川
	26	日	環境整備(猛暑)	17	柏林台通り
6	1	土	帯広川視察・水質検査(悪臭=バックテスト、COD10ppm)	3	帯広川
	2	日	ゴミ拾い	5	帯広川沿い
	3	月	帯広川生物調査(2, 5, 8, 12, 15, 19, 21, 24, 29日; 9回)	11	帯広川
	6	木	帯広川排出口環境整備(3, 7, 10, 19, 29日; 5回)	14	草刈り、ラベンダー植栽
	13	木	帯広川視察・水質検査(悪臭=バックテスト、COD10ppm)	2	振興局へ報告
	20	木	役員打合せ	3	事務局
	23	日	役員会(川体験日程等)	7	西十号会館
	23	日	環境整備(資源回収)	16	
7	7	日	役員会	11	帯広川河川敷公園 11名
	3	水	帯広川排出口環境整備(3, 23, 29日; 3回)	14	
	8	月	体験学習支援 開西小1年	52	帯広川 児童33・大人19名
	9	火	体験学習支援 帯広幼稚園	51	帯広川 園児等26・大人25
	10	水	体験学習支援 帯広幼稚園	77	帯広川 園児等56・大人21
	19	金	帯広川生物調査(19, 22, 24, 26, 27, 29, 30, 31日; 9回)	19	
	21	日	帯広川視察・水質検査(21, 24日; 悪臭=COD10ppm)	5	帯広川
	27	土	役員会、倉庫整理	4	事務局、河川敷公園
8	2	金	帯広川生物調査(2, 7, 13, 14, 17, 25, 27, 31日; 8回)	15	帯広川
	3	土	体験学習支援 トムテの家	48	帯広川 幼児15・大人(親を含む) 33名
	8	木	帯広川排出口等環境整備(8, 14, 18日; 3回)	11	
	22	木	体験学習支援 開西小 年 低温降雨で中止	4	帯広川
	23	金	体験学習支援 開西小 年 低温降雨で中止	4	振興局
	29	木	多自然ネットと打合せ	5	事務局
9	1	月	帯広川生物調査(1, 2, 3, 5, 6, 8, 9, 13, 14, 21, 22日; 11回)	16	帯広川、事務局
	3	火	帯広川排出口等環境整備(3, 4, 19日; 3回)	12	
	10	火	川体験会用品後片付け	6	事務局
	12	木	帯広川視察・水質検査(悪臭=COD10ppm)	2	帯広川、事務局
	20	金	川づくりワーキング打合せ	3	振興局
	24	月	川づくりワーキング会議	27	振興局
	29	日	役員会	5	事務局
10	1	火	帯広川生物調査(1, 10, 18, 22日; 4回)	7	帯広川
	3	木	事務局長 佐藤宣之氏 逝去		
	10	木	帯広川排出口等環境整備(10, 19日; 2回)	5	
	21	月	サケ人工受精体験会準備、役員会	6	開西小、事務局
	23	水	川づくりワーキング視察	4	開西小
	28	月	サケ人工受精体験授業	47	開西小
11	1	金	納会	34	西十号会館
	4	月	帯広川視察、役員会	9	帯広川、事務局
	13	水	帯広川生物調査	3	開西小
	22	金	役員会	2	事務局
	30	金	川づくりワーキング帯広川視察	5	十勝川、札内川、帯広川 エコパ等
12	1	日	環境整備(資源回収)	11	河川敷公園
	5	木	役員会	8	事務局
	15	日	帯広川視察	4	帯広川
	22	火	子供会餅つき支援	8	西十号会館
	26	木	役員会	4	事務局
1	2	木	役員会	3	事務局
	5	日	新年交礼会	19	西十号会館
	15	水	とかち検定試験部会	1	商工会議所
	15	水	開西小サケ水槽管理	3	開西小
	24	金	札内川懇談会	1	第2合同庁舎
	30	木	役員会・帯広川視察	4	事務局、河川敷公園
2	1	土	十勝の観光文化検定特別セミナー	1	農協連ビル会議室 32名参加
	13	木	役員会	4	事務局
	19	水	帯広川視察、開西小サケ水槽管理	3	開西小
	21	金	開西小ボランティア連携会議	3	開西小
	25	火	川づくりワーキング打合せ	2	十勝振総合興局
	27	木	第3回川づくりワーキング 中止		COVID19
3	2	月	小中学校一斉休校		COVID19
	5	木	札内川懇談会 中止	3	第2合同庁舎
	18	水	帯広川視察、開西小サケ水槽管理	2	帯広川
	27	金	役員会(持ち回り; 事業報告取り纏め等)	9	事務局
	31	火	帯広川視察	3	帯広川

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 備品等一覧 20200331

備 品 等	数	備 品 等	数
ウエダー(胴長靴)	11	水槽(開西小配置)	2
ハイウエダー	7	同上用ポンプ等	2式
ライフベスト 大人用	15	ポリタンク(10L)	1
ライフベスト 子供用	30	サケ人工孵化器具	1式
同上用 キャリーバック	3	冷却装置	1
ヘルメット(子供用)	30	エンジン刈払い機	2
ドライスーツ	1	同上用安全装置(かるべえ)	1
バスタオル	8	安全フェースマスク	2
救急セット	1	ガソリン携行缶 5L	2
敷材(ブルーシート等)	4セット	ガソリン携行缶 20L	1
アルミテーブル	4	ヘルメット(工事用)	5
ポップアップテント	小1、中1	安全靴	2
ポータブル水洗トイレ	1	草刈サロペット	1
デジタルカメラ	1	一輪車・台車	各1
プリンター	1	カケヤ	1
パソコン	1式	鉋(ナタ)	1
ハンドマイク	2	鍬(クワ)	2
透視度計	1	鎌(カマ)	3
ストップウォッチ	2	フォーク	1
温度計	2	ショベル(穴あき)	1
実体顕微鏡	1	鋸	3
覗きメガネ	10	剪定鋏	2
虫メガネ	25	刈込鋏(ハサミ)	2
バケツ	20	砥石	2
綿見ルーペ	2	シャープナー	2
バット(白)	8	ツールボックス	1
ポリ手付ピーカー	3	安全ロープ	2
網(大、小)	35	同上用杭	5
ピンセット先曲	20		
パックテスト用専用カップ	20	安全管理ハンドブック	1
脚立	1	自然体験活動指導者ハンドブック	1
空気入れ	1	まさかの時の生き残り塾	1
ポリカゴ	2	アウトドアで遊ぶ学ぶ	1

ご入用の物品等がございましたら、いつでもお貸しますので事務局へお尋ね下さい。